

## 序論) 勝利の仕方

今月の 5 日、【「信じられない勝利」 10 人のユベントスが CL ライプツィヒ戦で逆転できた理由】という題でスポーツニュースが報じられました。これはどのようなニュースかというと、ヨーロッパのサッカーにおける最高峰の大会である UEFA チャンピオンリーグにおいて、ユベントスというイタリアのサッカーチームが奇跡的な勝利をしたというニュースです。細かい試合展開は省略しますが、最初均衡していた試合でしたが、後半戦でゴールキーパーがゴールキーパーとして手を使って良い領域の外でボールを持ってしまいペナルティーを取られました。そして、このペナルティーによってその試合に出ていたミケーレ・ディ・グレゴリオというキーパーに退場が命じられ、なんとユベントスチームは 10 人で試合をしなければならないといけな状況になったのです。

サッカーは本来 11 人が一つのチームになって戦うものです。それが 10 人で戦わなければ行かないというのは、非常に不利な状況です。一人少なくなることで守備の範囲は広くなるし、本来の戦略も取れなくなります。当然、攻撃力も下がるので得点も取りにくくなります。

しかし、そういった不利な状況の中でユベントスというチームは逆転勝利をしたため、「信じられない勝利」としてニュースになったのです。

実は、私達の救い主である【主】イエスキリストがこの地上に来られ、十字架の苦しみを受けられ、私達を救い出してくださったのは、ユベントスの勝利以上に信じられないような神様の勝利の出来事でした。そのことを預言しているのが、先程読んでいただいたイザヤ書 53 章の預言です。【主】はどのような「信じられない勝利」をされたのでしょうか。御言葉から教えられていきたいと思えます。

## 文脈)

今日の箇所は 51 章、52 章の預言と文脈的につながっています。そのつながりの鍵となるのが「【主】の御腕」です。イザヤ書 51 章 9 節を読んでみましょう。

51:9 目覚めよ、目覚めよ。力をまとえ、【主】の御腕よ。目覚めよ。昔の日、いにしえの代のように。ラハブを切り刻み、竜を刺し殺したのは、あなたではないか。

これはイスラエルが神様の憐れみを信じきれないで、神様に対して【主】の御

腕、救いの御腕を動かしてください。と願っているみことばです。

これに対して神様は 52 章の預言でこのように言われます。

**52:10 【主】**はすべての国々の目の前に聖なる御腕を現された。地の果てのすべての者が私たちの神の救いを見る。

つまり、神様は別に眠っておられるわけではなく、イスラエルを救う救いの御腕を用意されており、その御腕の御業を世界中の人達が見ることができるよう計画されていたのです。

そして、今日の 53 章では、その【主】の御腕がどのように現れ、どのような御業をなされるのかが預言されています。

1) 【主】の御腕の現れ方 - とても信じられない現れ方をした【主】の御腕 1 節を読んでみましょう。

**53:1 私たちが聞いたことを、だれが信じたか。**

**【主】の御腕はだれに現れたか。**

イザヤは、神様が現れると預言された【主】の御腕のことを「だれが信じたか」。その御腕は「だれに現れたか」と語っています。つまり、神様の救いの御腕は、とても【主】の御腕とは信じられないあり方で現れ、そうとは思えない人に現れる。というのです。

どのような人に【主】の御腕は現れたのでしょうか？ 2 節を読みます。

**53:2 彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。**

**彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。**

2 節の「ひこばえ」とは、この写真のように切り取られた切り株の根本から生える芽で、通常が切り取られてしまうようなものです。これは何を意味しているかという、救い主が生まれる民族であるイスラエルはその罪によってアッシリアとバビロンに倒されてしまいました。まさに切り倒されて残った切り株のような状態になったのです。しかし、神様はその切り株の根本から本来、切り取られるような「ひこばえ」として【主】の救いの御腕を生やされると言われているのです。

しかも、この「ひこばえ」と呼ばれる【主】の御腕は、なんの輝きも無いような

あり方で生え出たのです。3節を読みましょう。

**53:3** 彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。  
人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。

多くの人はこのみことばをイエス様の受難の箇所だと理解します。確かにイエス様は十字架の受難を受けられるときに、人々から蔑まれ、のけ者にされ、顔を背けられ、尊ばれませんでした。忠実な弟子であるペテロにさえ、呪いをかけて知らないといわれるほど、見下されました。だから、この箇所を十字架の受難を示す箇所として理解するのは間違っていないのですが、実際的なイエス様の幼少期もこのような状態だったのかもしれない。

人々から蔑まれ、のけ者にされていうのは、イエス様がまるで苛められっ子だったように思えます。また、悲しみの人で、病を知っていた。というのは、病弱な子どもだったとも思えます。

実際、イエス様の顔や体などの容姿がどのような姿で、イエス様がどのような幼少期を過ごされたかは、聖書にかかれていません。

でも、多くの人には、イエス様が小さい頃、苛められっ子で、病弱なもやしっ子だった。と言っても信じないと思います。それは神の子であるイエス様がいじめられっこだったはずがない、病気になるはずがない。と無意識に思い込んでいるからです。

実際はどうだったかはわかりません。でも、この預言をそのまま信じるのならば、イエス様はそのようなとても神様の御腕としてこの世に来られたとは思えないようなあり方で、この世にあらわれてくださったのです。

みなさん、先程私は、イエス様はいじめられっ子のもやしっ子だったのではないかといいました。これは完全な想像の話です。事実とは違うかもしれません。でも、もし、イエス様がいじめられっこのもやし子みたいな幼少期を過ごされていたとしたら、みなさんはそれを救い主であり、【主】の御腕として信じる事ができるでしょうか。恐らく信じる事ができないと思います。

【主】はそのような信じられない姿で救いの御腕を伸ばされるのです。

**2) 【主】の御腕の御業 - 私達の病と痛みを担った。これも人は理解できなかった。**

それではそのように信じられない姿で伸ばされた【主】の御腕は、何をしたのでしょうか。4節を読みましょう。

**53:4** まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。

それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。

ここで注意していただきたいのは、先程読んだ3節の「病」は【主】の御腕が個人的に体験された病であり、この4節の病は、「私達の病」つまり私達みんなが持っている病のことを指しているという点です。私達、すべてが持っている病。それは罪です。

【主】の御腕は、私達の罪を背負って、私達が体験しなければいけないその罪の痛み。つまり、罪に対する裁きを担われたのです。これこそ、まさに【主】イエスキリストの十字架ですね。

ですが、その十字架の御業がなされたとき、人はどう思ったのでしょうか？人はイエス様のことを「神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだ」そう思ったのです。本当は、私達が「神に罰せられ、打たれ、苦しめられ」なければいけないのを、【主】の御腕であるイエス様が変わりにお受けになったのに、その身代わりを人は認識できず、イエス様の自業自得だと思い込んでいるのです。でも、そうではありません。5節。

**53:5** しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

イエス様は、私達の背きのために刺され、砕かれました。なんのためでしょうか。私達に平安を与え、私達が持っていた罪によって傷ついた打ち傷を癒やすためです。【主】イエスキリストの十字架は、私達に平安を与え、私達を癒やすためのものでした。

これは私達が、神様に対してまっすぐで立派な生き方をしていたからでしょうか？ そうではありません。6節を読みましょう。

**53:6** 私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、【主】は私たちすべての者の咎を彼に負わせた。

これは直接的には【主】に背いていたイスラエルのことですが、同時に私達のこ

とでもあります。私達は神様の前で、まっすぐな道を歩んでいませんでした。神様の方を見ず、この世の富やこの世の平安、この世の喜びを手に入れるために、人生の道をさまよい、神様を無視した自分勝手な道を歩んでいました。

でも、神様はそんな私達のために、私達のすべての咎を、【主】の救いの御腕であるイエス様に背負わせたのです。

### 3) 黙々と受難する【主】の御腕

しかも、イエス様はこの神様の救いの計画をどのように実行されたのでしょうか？ 黙々と、黙って、何の文句も言わずに、この苦しみをお受けになったのです。7節と8節前半を読みましょう。

**53:7** 彼は痛めつけられ、苦しんだ。

だが、口を開かない。

屠り場に引かれて行く羊のように、

毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、

彼は口を開かない。

**53:8a** 虐げとさばきによって、彼は取り去られた。

みなさん、羊が毛を刈られている動画をみたことがあるでしょうか。みたことが無い人は youtube で検索すればすぐ見れますので、見てください。羊は本当に何の抵抗もなく、黙って毛を刈られます。イエス様はその羊のようになんの弁明も言い訳もせず、黙って裁判を受け、もくもくと私達の贖いの十字架をお受けになられたのです。しかもそれは毛を刈られるのではなく、「虐げと裁きによって取りされる」という受難です。この「取り去られる」とは「絶たれる」と訳すことができることばが使われています。【主】イエスキリストはまさに、虐げと裁きによって殺されたのです。しかも、その死に方もまともなものではありませんでした。少し飛んで9節を読みましょう。

**53:9** 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。

彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。

これはイエス様が強盗たちと一緒に殺されること、そして、お金持ちのアリマタヤのヨセフの墓に葬られたことが示されています。実際、イエス様はこの預言の通りに殺され、葬られました。なんの罪も欺きもないのにです。

では、その時代の人達がこのことを正しく認識できていたのでしょうか。8節の後半を読みます。

**53:8b** 彼の時代の者で、だれが思ったことか。

彼が私の民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。

ここでも、イエス様の受難の意味を人々が理解できず、イエス様ご自身の自業自得だと思い込んだことが強調されています。みなさん、人は神様の救いの御業を正しく理解することができないのです。

神様の救いの御腕は、人には理解できないものなのです。じゃあなんで、私達はこれを信じて、受け入れることができたのでしょうか。それは神様が私達の内に働いてくださったからです。ヨハネの福音書6章44節を読んでみましょう。

**ヨハネ 6:44** わたしを遣わされた父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとに来ることはできません。

また、エペソ2章8節も読みたいと思います。

**エペソ 2:8** この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

私達は、神様の御腕の御業、救いの御業を正しく理解できないものです。でも、神様が恵みによって私達を引き寄せ、救いを与えてくださったから、イエス様の十字架を理解し、自分のこととして受けることができるようになったのです。

だから、ある意味では、この世の人達がイエス様のこと、神様のことを理解できなくて当たり前なのです。それが神様流の救い方だからです。

だから、みなさん。人々にイエス様のことを伝えて、それを理解してもらうことができなくても、がっかりしないでください。ある意味で、そのように人が理解できないのは、神様の救いのご計画の通りのことなのです。

**4) 彼の苦しみは【主】のみ心であった。**

そして、イエス様が私達の罪を背負って苦しむことも、【主】のみ心の通りでした。10節を読みましょう。

**53:10** しかし、彼を砕いて病を負わせることは【主】のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。

ここでイエス様のいのちの代償によって見ることが出来る「子孫」とは、イスラエルのことであり、【主】イエスキリストによって救われた私達のことです。イエス様をご自分のいのちを犠牲にすることによって救われる私達のことを見ておられ、それによってご自分の苦しみを満足されるのです。11節を読みます。

**53:11** 「彼は自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。

【主】の御腕である【主】イエスキリストは、いやいや十字架にかけられたわけではありませんでした。私達の教会の年間聖句 ヘブル人への手紙 12章2節の後半の部分を読んでみましょう。

**ヘブル 12:2** 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをもものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

信仰の創始者である【主】イエスキリストは、私達が救われるという喜びのために、辱めをもものともせず、十字架にかかり、その後天に昇られて、神の右の座に着かれたのです。イエス様にとって、私達が救われるということは、いのちをかけてもいいと思うほどの喜びだったのです。だから、イエス様は、そのためにご自分が苦しんだのをみて満足されるのです。

そして、その結果どうなるかというと、イザヤ書にもどって12節

**53:12** それゆえ、わたしは多くの人を彼に分け与え、彼は強者たちを戦勝品として分ち取る。彼が自分のいのちを死に明け渡し、背いた者たちとともに数えられたからである。彼は多くの人を罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」

イエス様をご自分のいのちを死に明け渡してくださった結果、どうなったでしょ

うか。神様がイエス様に、多くの人を戦利品として分け与えられたのです。

このイエス様の戦利品こそ、イエス様によって救われた私達です。みなさん、私達は、イエス様が罪に勝利し、死に勝利し、サタンに勝利された結果、【主】のものとされた、【主】の戦利品なのです。私達は、【主】が勝利された証しなのです。

【主】イエスキリストはこの勝利を得るために、私達の罪を背負い、私達のためにとりなしをされました。イエス様の十字架の上のことばを思い出してみましよう。

### ルカの福音書 23:34

そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」

そして、イエス様は今も私達のためにとりなし祈られています。この御言葉も読みましよう。

ローマ 8:34 だれが、私達を罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私達たちのために、とりなししてくださるのです。

だから、私達はもはや罪に定められないのです。

【主】イエスキリストは、私達の身代わりになるために十字架にかかり、その十字架の上でとりなしをされ、さらに復活された後も、【主】の戦利品となった私達のためにとりなしをし続けてくださっているのです。これほどの感謝なことがあるでしょうか。

### まとめ)

まとめます。

みなさん、【主】は確かに救いの御腕を伸ばされました。

でも、それはみんながイメージするような神様の救いの御腕ではなく、何の栄光もない。寧ろ、蔑みの中にあるものでした。【主】は一見すると、神様の救いの御腕とは思えない救いをなされるのです。

そして、その救いの御腕は、派手な戦いをして勝利を得るのではなく、私達の変

わりに罪の病を負い、その痛みを担って、私達に平安と癒やしを与えてくださるものでした。それは黙々と実行されたのです。

しかし、この救いの御業を、私達、人は理解できません。人は、イエス様のことを【主】の救いの御腕だとは思わず、自業自得で滅んだ人と考えます。

それなのに、私達はイエス様を救い主と信じ、救われることができたのは、私達が神様を選んだのではなく、神様が私達を選び、神様が私達を救うために引き寄せてくださったからなのです。私達の救いは、ただ【主】の恵みによります。

そして、【主】の御腕である【主】イエスキリストは、私達を戦利品として得るために、喜んで十字架にかかれ、その苦しみをみて満足されたのです。

私達は、それほどまでに【主】に愛され、【主】に求められているのです。

そして、感謝なことに、【主】イエスキリストは、【主】の戦利品となった私達のために、今もなお、神の右の座につきながら、とりなしをしておられます。

みなさん、このように私達が救われたのは、まさに「信じられない勝利」に他ならないのです。私達は、自分の力ではこの救いを信じることはできません。しかし、【主】の恵みによって信じることができ救われたのです。

このことを心から感謝しましょう。

そして、イエス様のことを人々に伝えて、その人たちがすぐに信じることはできなくても、落ち込まないようにしましょう。人が、この救いを理解できないのは、ある意味では当たり前なのです。【主】がその人に働いて、この真理を理解し受け入れることができるように、私たちも【主】イエスキリストに倣って、とりなしの祈りをしていきましょう。

お祈りいたします。